

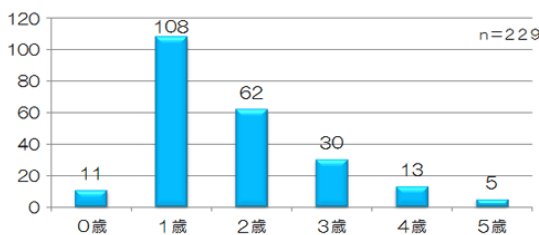
子どもの救急事故について

むし歯予防のため、歯磨きは大切な生活習慣の一つです。歯磨き習慣が定着化したことにより、むし歯になる児童の数は年々減少しています。昨今は乳幼児期から歯ブラシに慣れるために、専用の歯ブラシを使用して歯磨きを始めさせるのが一般的ですね。

しかし先日、「乳幼児が歯磨き中に歯ブラシをくわえたまま転倒し、口を負傷する事故が相次いでいる」として消費者庁と国民生活センターが「歯磨き中は、保護者がそばに付き添って」と注意を喚起しました。

東京消防庁では過去5年間で229件の搬送があり、歯磨きしながら歩いて転んだり、踏み台から落ちて歯ブラシの先端が頬やのどに突き刺さるなどしています。年齢別には1歳児が最も多く108件です。

年齢別救急搬送人員（東京消防庁管内）



子どもの事故は年齢によって種類が異なりますが、特に乳幼児については①危険に対する認識、②運動能力、③バランス感覚に未熟なところがあり、また好奇心が強く「物をつかむ」「口に入れる」という行動が多く見られます。事故を防ぐには親御さんが常に見守ってあげることと、異物の誤飲や怪我するおそれのある物は遠ざけておくことが大切です。

具体的には「転倒：12%」ベビーカーに

乗っていて不意に立ち上がったため、ベビーカーごと倒れた。室内で転倒した際に床にあった玩具に顔面をぶつけたなどがあります。

また、「転落：28%」ベットやソファから落ちた、子どもを抱いていた母親が手を滑らせて落とした、おむつ替えのためテーブルに寝かせていて落としたなどです。

幼児になってくると「衝突・ぶつかり：12%」があり、乗っているブランコの前を横切ろうとして頭部を強打した、走り回っていて勢い余って家具にぶつかった、などです。

「挟まれ事故：5%」は、ドアなどで手指を挟まれ骨折した、ベビーカーを広げる際に子供が手を触れているのに気付かず指を挟まれたなど。

「異物の誤飲：5%」では、玩具の部品やビー玉、乾燥剤、親の睡眠薬、タバコなど重大な事故にもなります。

0～3歳児を持つ保護者（1200人）に対するアンケート調査では25%の人が「けがをした」「しそうなった」と答え、70%の人が「聞いたことがない」として認識していないという事です。

さて、あなたはの認識度はいかがですか？

（「チャイルドヘルス」2010.4参照）

（たまなは）

